

いきいきゼミナール 健康と医療

健康と医療についてゲストに語っていただくコーナーです

テーマ「非結核性抗酸菌症」 ゲスト 白石内科クリニック 干野 英明 医師

一非結核性抗酸菌症について教えてください。

風邪やインフルエンザの咳や痰(たん)は、通常数日で改善します。しかし、半月以上続く場合は、何か別の病気が隠れている可能性があります。最近日本で増えているのが、非結核性抗酸菌症です。結核菌の仲間を抗酸菌と呼びますが、概して結核菌以外の抗酸菌で起きる病気で、非定型抗酸菌症とも呼ばれます。

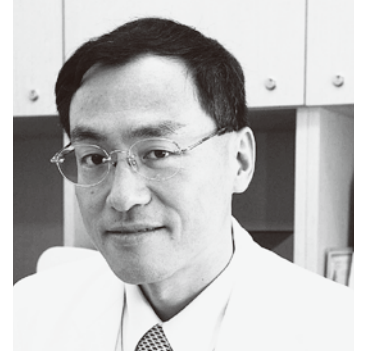
この菌は生活環境の中に広く分布し、土壌、粉塵(ふんじん)、川、風呂場、シャワーなどに存在します。毒性は弱く健康な人には感染しにくく、少量であれば肺の中に入っても発症することはありません。結核との大きな違いは、人から人へ感染しないため、発症した人と接触してもうつらないこと、毒力が弱く重症化しにくいこと、抗結核薬があまり効かないことなど

です。

一症状、治療について教えてください。

非結核性抗酸菌は、自然界に約120種類あり、人間に感染するのは20種類ほどといわれています。日本で最も多いのはマック菌(アビウムコンプレックス菌)で、全体の7~8割、次はカンサシ菌で1~2割、その他の菌が約1割です。マック菌は高齢者や慢性の肺疾患を持つ人や、

免疫が低下した時などに感染します。ところが最近、基礎疾患がない健康な50~60歳代の女性に発症するケースが増えています。遺伝的な要因が疑われ



ていますが、詳しいことはよく分かっていません。一方、カンサシ菌は若い男性の喫煙者に多いといわれています。この菌には抗結核薬が有効です。非結核

性抗酸菌症は自覚症状に乏しいことが多いのですが、進行すると咳、痰、血痰、微熱などの症状が出てきます。

診断には、胸部レントゲン写真やCT検査を行います。痰の培養検査から抗酸菌の存在を確認し、さらに詳しい検査によって菌の種類を明らかにします。治療は結核に準じた薬物療法が中心です。一般的に予後は良いとされていますが、単独で効く薬がないため、クラリスロマイシンという抗生物質と2、3種類の抗結核薬を組み合わせで投与します。しつこい菌なので1年程度は内服を続ける必要があります。病巣が限られている場合は外科的に切除することもあります。